２．事業の目的と概要	
（１）事業概要	本事業は、クルナ市から南方向 65km のところに位置するクルナ管区、クルナ県、ダコップ郡、バニシャンタ行政村を対象地域としている。本地域は、ユネスコの世界自然遺産とラムサール条約湿地サイトに登録されているシュンドルボン(The Sundarbans)と対岸を接する場所に位置している。本事業の直接裨益者は、計 265 世帯の農村生産者である。 (1) 漁師 110 世帯(110 人: 男性 50 人、女性 50 人、青少年 10 人) (2) 農業・畜産農家 80 世帯(80 人: 男性 40 人、女性 40 人) (3) 非木材林産物[1]生産農家 40 世帯(40 人: 男性 15 人、女性 25 人) (4) エコ・グリーンツーリズム実施 35 世帯(35 人: 男性 10 人、女性 10 人、青少年 15 人 (5) 小学校 11 校(教師 34 人、生徒 1,583 人、保護者 3,166 人) ※ 間接裨益人口: バニシャンタ行政村(Banishanta Union)周辺で第一次産業に従事する生産者、約 3,795 世帯 (16,124 人) 事業の目的は、零細農村生産者を対象とし、行政、企業、大学、学校、NGO といった関係者とのパートナーシップの構築・連携と地域の自然資源を適切に利用しながら、農畜林水産部門の 6 次産業化による付加価値のある商品、加工技術の開発、マーケティングの開拓やエコ・グリーンツーリズム等のサービスを提供し、農村生産者の主体による持続的な生計向上を図ることである。本事業（第３期）では、農畜林水産業の六次産業化による 1 次産業者の生産技術のより一層の向上、加工や商品の品質改善を通じてバングラデシュ国内で開発された農畜林水産物の販売、並びにエコ・グリーンツーリズムの本格実施による定着を通じ、11 の小学校(教師 34 人、生徒 1,583 人、保護者 3,166 人)と植林等を通じた地域の自然環境を保全しながら Sundarbans Workers Cooperative Society Limited(直接受益者 265 世帯)の生計向上を図る。
	The target of this project is in Sundarbans, Bangladesh. The project goal is to reduce the poverty of rural producers through sustainable and appropriate use of the natural resource, creating Alternative Income Generating (AIG) activities by sixth sectors (to integrate primary, secondary, tertiary industries) by cooperating with stakeholders.
（２） 事業の必要性 (背景)	**（ア）<u>事業実施国における一般的な開発ニーズ</u>** バングラデシュ政府は 2021 年までに全国民が中所得国レベルの生活を享受できる社会を実現するため、持続可能かつ公平な経済成長の加速化と貧困からの脱却という目標を掲げている。同国家戦略としての第二次貧困削減戦略文書(Poverty Reduction Strategy Paper: PRSP)では、貧困削減に資する経済成長のための 5 つの戦略ブロックの中の重点分野の一つとして、「農畜林水産業」や「農漁村開発」が挙げられている。特に、主要な米等の生産物だけでなく、農産林水産物の多様化および高付加価値化を促進していくことが求められている。 バングラデシュでは、農業に従事している労働人口の割合は 40.6%[4] である。同国政府の統計によれば、農林業は GDP の約 21.1%、畜産業約 3.6%、漁業約 3.7%と、第 1 次産業部門は国全体の 1/4 以上を占めている。このように、農畜林水産業は、国全体や農村地域で暮らす住民にとって重要なセクターの一つである。 シュンドルボン(The Sundarbans)周辺地域には、約 350 万人の住民が農畜林水産等の第一次産業で暮らしている。彼らの多くはユネスコの世界自然遺産とラムサール条約登録された世界最大のマングローブ湿地林(バングラデシュ側:約 60 万 ha、インド側: 約 40 万 ha、計 100 万 ha)と対岸を接する場所で、マングローブが魚のゆりかごになる等、自然の恩恵を受けながら生活している。 今回の対象地域であるバニシャンタ行政村(Banishanta Union)を見ると、農業ではスイカ、かぼちゃ、米やなつめやし、ココナッツ等の栽培、家畜では、牛、ヤギの飼育、林業ではニッパヤシ(屋根やフェンスの資材等に使用), 漁業ではイリッシュ(ニシン科の魚で、バングラデシュを象徴する魚の一つ)、エビ、カニ等の生産が盛んである。また、同行政村は、シュンドルボンの観光の入り口であるモングラ(Mongla)やビジターセンター(Karmajal: 船で渡る必

[1] 非木材林産物：非木材林産物(NTFPs: Non-Timber Forest Products)とは、森林地域で木材を除いた樹木、植物等から取れる産品のことを言う。

	要有)に隣接している地域でもある。政府の統計によれば、シュンドルボン周辺には、国内外から毎年 22 万人程(政府統計)の観光客が訪れている。 しかし、シュンドルボン周辺の農村部で暮らす農畜林漁業者の月収(世帯当たり)は、約 2,000 タカ(≒2,600 円)～7,000 タカ(≒9,000 円)が平均であり、家族が経済的に安定した営みを送るには、依然として貧しい地域の一つである。同地域の大きな課題の一つは経済的な貧困であるが、それを阻害している農畜林水産業の主な要因としては下記が考えられる(現地住民とのワークショップの結果より)。 (1) 第一次産業の生産者による食事の煮炊き用に使用するためのマングローブ林の不法な伐採や、農薬の多用による土壌・河川の汚染等が進み、自然資源の適切な利用や減農薬等の環境保全型農業が行われていないため、地域の生物多様性が損なわれている。 (2) 衛生面に配慮した家畜飼育が十分に行われていないことや、畜産物の生産品質が均一ではないこと。 (3) 非木材林産物の商品化や販売が、十分に行われていない。 (4) 第一次産業の生産者の多くは、農畜林水産物を仲介業者に引き渡す方法で販売しているが、その際、公平な価格で取り引きさせてもらえない。 (5) 第一次産業の生産者は、独自のマーケティング・チャンネルを持っている人が少ない。 (6) 第一次産業(生産者)、第二次産業(加工業者)、第三次産業(サービス業者)が個々に活動を行っている。彼らが、協力・連携して同地域の農畜林水産物の付加価値を見いだした商品開発や販売を行い、住民の生計向上や地域を活性化させていこうという取組みがほとんどない。 (7) 2016 年に、政府は同地域の観光産業の促進を宣言した。同地域には、国内外から年間 22 万人の観光客が訪れているにもかかわらず、地域性やその固有性を活かした住民主体によるエコツーリズム[2]やグリーンツーリズム[3]は十分に行われていない。また、コミュニティベース型ツーリズムを実施するための宿泊施設等の基盤整備が整っていないのが現状である。 このような課題を克服するため、農畜林水産物の生産(第一次産業)だけでなく、食品加工(二次産業)、流通・販売やツーリズム等のサービス(三次産業)の一連のプロセスを統合させた六次産業化に取り組むことで、シュンドルボンの農畜林水産業の活性化や同地域の農山漁村における包摂的な経済発展へ寄与するものと考えられる。また、シュンドルボンの自然の恵みを活かした安全・安心できる農畜林産物を提供していくことは、バングラデシュ国内の信頼と同地域のブランド化を図る上でも極めて重要である。六次産業化は、同国の戦略である農産林水産物の多様化および高付加価値化を伴う商品の開発・流通・販売、並びに地域住民の貧困の緩和へつながっていくと推測される。 **（イ）持続可能な開発目標（SDGs）との関連性** 本事業は、零細農村生産者が関係者と連携し、地域の自然資源を適切に利用しながら農畜林水産部門の 6 次産業化による付加価値のある商品、加工技術の開発、販売先の開拓やエコ・グリーンツーリズム等のサービスを提供し、農村生産者の貧困の緩和に寄与することが大きな目標の一つである。また、女性が商品の開発・販売に積極的に関わることで、女性のエンパワーメントを促進することや、農地、マングローブ林、漁場等の里山・里海の保全・再生を図り、環境林業・気候変動省、農業省、漁業・家畜省、経済産業省、観光省、地方自治農村開発協同省、バニシャンタ行政村等の行政、旅行・食品加工会社等の企業、クルナ大学の専門・研究機関、現地 NGO のバングラデシュ環境開発協会(以下、BEDS)、農村生産者や小学校の地域住民と連携しながら、同地域での持続的且つ社会包摂的な農畜林水産物の六次産業化とそのビジネスを構築することを

[2] *エコツーリズム*: 自然や文化への興味関心を深め、その地域ならではの資源を活かした体験活動や観光。
[3] *グリーンツーリズム*: 農山漁村で過ごす休暇・余暇活動。農業体験や民泊体験・その他自然体験活動を通じてその地域の人々・文化に触れて、交流やゆとりある時間を楽しむ観光。
[4] 外務省「バングラデシュ人民共和国基礎データ」https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/bangladesh/data.html (2021 年 12 月 15 日閲覧)

目指している。
以上を踏まえ、本事業では、下記の持続可能な開発目標（SDGs）の 17 のゴールとその細分化ターゲットの達成に大きく貢献するものと考えられる。
※カッコは細分化ターゲットを示す。
目標 1 (1.2, 1.b): あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。
目標 2 (2.3): 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し持続可能な農業を促進する。
目標 5 (5.5, 5.c): ジェンダー平等を達成し すべての女性及び女児の能力強化を行う。
目標 8 (8.5, 8.9): 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。
目標 12 (12.8, 12.b): 持続可能な生産消費形態を確保する。
目標 14 (14.2, 14.b): 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
目標 15 (15.1,15.2): 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。
目標 17 (17.16,17.17): 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

また、OECD 各政策目標との関連性は、下記の通りである。

ジェンダー平等	環境援助	参加型開発／良い統治	貿易開発	母子保健	防災
1:重要目標	2:主要目標	1:重要目標	0:目標外	0:目標外	0:目標外
栄養	障害者	生物多様性	気候変動（緩和）	気候変動（適応）	砂漠化
1:重要目標	0:目標外	2:主要目標	1:重要目標	0:目標外	0:目標外

（ウ）外務省の国別開発協力方針との関連性

シュンドルボン周辺の農村生産者の生計向上に資する支援を行うことは、同国政府が政策目標とする「2021 年の中所得国化」実現に向け、貧困層に配慮した持続可能な経済成長の加速化に貢献する。そして、同国の経済活動の活性化並びに貧困などの社会の脆弱性の克服への取組みとして、農畜林漁業・農漁村開発、教育等への支援が強化されているため、本事業との関連性は高い。また、外務省の国別開発協力方針では、「GDP 成長の加速化、雇用創出及び貧困削減」や、社会脆弱性の克服のために「農村部の生活環境改善・生計向上に資する支援」とあり、本事業内容とも合致している。また、同国の農業振興政策に当たっては小規模農家の生産性の向上、作物の多様化・付加価値化、女性の参画、環境保全型農業の推進や栄養改善等について強調している。一方、観光セクターでは政府が 2016 年にツーリズム宣言をだし、シュンドルボンにおいても観光振興、特に、自然資源を活かした持続可能なツーリズムによる地域経済の活性化を重視している。本事業は、持続可能な開発目標(SDGs)、OECD 各政策の達成や「2021 年の中所得国化」といった国際目標および国の政策との関連性が高く、事業内容も合致していると言える。

（エ）弊社団が実施してきた対象地域での事業内容と事業地の選定理由

(公社)日本環境教育フォーラム(以下、JEEF)は、自然と共生しながら地域に根ざした暮らしを営むための仕組みづくりを支援することを目指しており、バングラデシュの中でも唯一の世界自然遺産(ユネスコ)であり同国の自然環境保全の戦略上からも重要であるシュンドルボン地域周辺を対象とし、「生物多様性保全の教材開発と人材育成事業（2013 年から 2 年間：トヨタ自動車(株)トヨタ環境活動助成プログラム）をはじめ、多くの支援を実施してきた。
また、2016 年 2 月～2019 年 2 月(3 年間)に渡り、外務省の日本 NGO 連携無償資金協力の支援を受け、シュンドルボン地域に隣接するクルナ管区シャキトラ県シャムナガール郡 5 村(Burigoalini, Dakkhin Kodomtola, Mathurapur, Harinagar, Singhortoli)の天然蜂蜜採取人(50 世帯:100 名<男性 50 人、女性 50 人>)を対象とした蜂蜜採取の技能改善、商品開発に伴う組織や能力開発の強化を目的とした支援活動を実施した。

	今回の対象であるバニシャンタ行政村では、JEEF が 2015 年 4 月から現在まで、漁師 250 人と小中学校 10 校を対象としたマングローブ植林および環境教育教材の開発・普及啓発の実施、並びにコミュニティベース型のエコツーリズム開発に関する能力開発(エコツアーガイド 45 名の育成、マングローブの果実を使用したピクルスやニッパヤシを原料としたハンディクラフト(装飾品)等のお土産開発、ホームスティ受入の検討等)を中心として、地域住民、BEDS、旅行会社や環境林業・気候変動省等と協力して実施してきた実績を有する。また、コミュニティガーデン(マングローブ・ニッパ、グアバ、マンゴー、レモン等の植林や地域の伝統的野菜栽培による観光農園)の創出，マングローブピクルスの商品化やエコ・グリーンツーリズムガイドライン等も進めた(2015 年 4 月～2019 年 3 月イオン環境財団の助成により実施)。 これらの活動を通じて、地域住民が日常生活と直接連結しているマングローブ林等の自然環境の保全や地域資源を適切に利用することが持続的な蜂蜜採取、エコツーリズム、グリーンツーリズムや農畜林水産業の発展にとって重要であるとの教訓および成果を得ることができた。 本申請事業では、シュンドルボン周辺にある農村のうち、JEEF が支援してきたバニシャンタ行政村(Banishanta Union)を事業地として選定した。スイカ栽培、牛の飼育、ニッパヤシやイリッシュ等の農畜林水産業の生産が盛んな地域であることや、シュンドルボン観光の入り口であるモングラ(Mongla)およびビジターセンター(Karmajal)に近いこと、並びに行政村、地域住民との関係づくりが十分にできていること等を踏まえたものである。
（３） 上位目標	バングラデシュ国クルナ管区のシュンドルボン(The Sundarbans)周辺の零細農村生産者は、農畜林水産部門の 6 次産業化による付加価値のある商品・加工技術の開発、マーケティングの開拓やエコ・グリーンツーリズム等の促進・定着を通じて、農村生産者の主体による持続的な生計向上を図る。
（４） プロジェクト目標（今期事業達成目標）	バングラデシュ国クルナ管区のシュンドルボン(The Sundarbans)周辺の零細農村生産者(265 世帯)を対象とし、農畜林水産部門の 6 次産業化による付加価値のある商品･加工技術の開発、マーケティングの開拓やエコ・グリーンツーリズム等の基盤整備および促進を図り、農村生産者の生計向上を図る。
	バニシャンタ行政村の直接受益者である農畜林水産者(265 世帯)、11 の小学校(教師 34 人、生徒 1,583 人、保護者 3,166 人)を対象とし、地域の自然資源を有効且つ適切に利用・保全しながら 6 次産業化の促進による生計向上の達成を目指す。
（５） 活動内容	本事業の実施に当たっては、対象地域の事業ネットワークを活かし、2010 年からシュンドルボン周辺で植林活動、生物多様性保全教育の普及啓発・人材育成、天然蜂蜜採取支援やエコ・グリーンツーリズム等の生計向上等による農漁村開発の支援および貧困削減を実施してきた JEEF の現地提携団体バングラデシュ環境開発協会(BEDS)、環境林業・気候変動省、経済産業省品質管理検査機関(BSTI)、地方自治農村開発協同省協同組合局、観光省観光局、バニシャンタ行政村等の行政機関やクルナ大学の専門研究機関と協力・連携しながら実施する。また、農業省、漁業･家畜省、旅行･食品加工会社等、本事業と関係のある機関を巻込みながら事業展開を図る。 加えて、専門家として、JEEF シニアアドバイザーである瀬尾隆史氏を迎え、農畜林水産部門６次産業化の全体計画策定及び管理、運営を担っていただく。また、江戸川大学　社会学部　専任講師/JEEF 客員上席研究員である佐藤秀樹氏には、専門家として、農畜林水産物門６次産業化全体計画策定を担っていただく。 本事業は、下記の通り 3 年間での実施を視野に入れ、段階的に行う。なお、今回の申請書では、第 2 年次の事業成果(2021 年 7 月 24 日時点)に基づき、第 3 年次の事業について提案を行う。 第 1 年次: 農畜林水産業の六次産業化へ向けた基盤整備、組織化、能力開発、商品(案)、加工技術の開発やローカル市場での販売、エコ・グリーンツーリズムの施設整備・実施等 第 2 年次: 農畜林水産業の六次産業化による 1 次産業者の技能向上とバングラデシュ国内での商品販売、エコ・グリーンツーリズムの本格実施 第 3 年次: 農畜林水産業の六次産業化による 1 次産業者による技能の普及活動と商品販売の拡大、エコ・グリーンツーリズムの定着 第 1 年次事業では、「1. Sundarbans Workers Cooperative Society Limited の組織形成」、「2. Sundarbans Workers Cooperative Society Limited(以下、農村生産者協同組合)の組織強化」、

「3. 適切な生産技術の習得や商品開発(案)・サービスを行うための技能向上」、「4. シュンドルボン沿岸流域を中心とした住民参加型の植林と環境教育の実施」の 4 つのコンポーネントで実施した。農村生産者協同組合の事務所兼倉庫、コテージ 4 棟やネイチャーボートの建設が完成した。また、農村生産者協同組合(農畜林水産業に関わる 265 世帯)が政府の公式な農村生産者協同組合として登録され、組織や施設基盤の整備等を通じて、対象とする農村生産者が 6 次産業を進めるためのプラットフォームの構築を図った。そして、漁師、農業・畜産、非木材林産物やエコ・グリーンツーリズムの各グループを対象とした教材・資料開発(生産・加工技術、販売やサービスの技能)とそれを活用した研修会の開催により、直接受益者 265 世帯の能力開発と漁業、農業・畜産、非木材林産物生産の各グループによる 3 つ以上の商品開発が行われた。それにより、現金収入は世帯当たり 10%増加したことから、当初の目標は達成した。また、エコ・グリーンツーリズム実施グループの収入は事業実施前から約 5 倍/世帯の増加となり、こちらも当初の目標を達成することができた。さらに、地域住民が参加してマングローブの樹木や果樹等の植林 27,700 本の実施を通じ、地域住民の森林保全や自然資源の適切な利用に関する意識向上に寄与することができた。

第 2 年次事業では、「1. 農村生産者協同組合の組織運営・基盤の強化」、「2. 適切な生産技術の習得や商品開発・サービスを行うための技能向上と商品の販売」、「3. シュンドルボン沿岸流域を中心とした住民参加型の植林と環境教育の実施」の 3 つのコンポーネントで実施している。これまでの成果としては、農畜林水産業の 6 次産業化による第 1 次産業者の生産技術の向上、加工や商品の品質改善や、エコ・グリーンツーリズムの組織・基盤の質の向上により、農村生産者協同組合(直接受益者 265 世帯)の生計向上を図るための能力の強化がより一層図られた。現在、本格的に市場で販売を進めるための準備を進めている。また。11 の小学校と植林およびその環境教育の実施を通じた地域の自然環境保全に対する当事者意識を高めることができた。

以上を踏まえ、第 3 年次の活動内容は、下記の通りである。

1. <u>農村生産者協同組合の組織運営・基盤の定着</u>

① 農村生産者協同組合の施設維持管理を円滑に実施していくための委員会の設置(7 人)。組合員の中から施設の維持管理を進めていくための委員を組合員の定例会時の話し合いの中で選抜し、施設の維持管理を行う中心的な役割を担ってもらう。
② 農村生産者協同組合の組合員同士によるワークショップを通じた農村生産者協同組合の施設維持管理計画の策定を行う(1 日間)。本ワークショップでは、本事業で建設した施設の維持管理体制やその運営方法について基本的な計画を立てる。
③ 農村生産者協同組合の施設維持管理を円滑に実施していくための研修会の開催(5 日間)
④ 商品の品質を維持管理していくための製品品質管理委員会の設置(7 人)
⑤ 商品の品質を維持管理していくための研修会の開催(5 日間)
⑥ 2 年次に作成した商品販売計画に基づいた売上金額や購入者からの商品に対するフィードバックを参考にして見直しを行う。
⑦ 各グループにおける生計向上の現状と課題に関する確認調査
⑧ 専門家による事業の直接受益者を対象としたインパクト・アセスメント報告書の作成
⑨ 本事業成果をまとめた小冊子の作成(2,000 部)。なお、小冊子は、本プロジェクトの協力・関係機関を中心として配布し、同国で農地林水産物の六次産業化を進めるためのモデルケースの事例として活用して頂くよう促す。
⑩ 政府関連機関への事業成果報告書の提出
⑪ 開発した農畜林水産物をオンラインで販売するためのアプリケーションの開発(スマートフォンでも購入することが対可能なアプリ)
⑫ 3 年間の事業成果の共有を図るためのフォーラム開催(100 人程の農村生産者対象)。新型コロナ感染拡大の影響で集会制限がかかる場合は、人数を少なくして対応する等、その時の状況に応じて検討を行う。
⑬ 事業終了後に発生する組合の運営費を貯蓄するため、組合員より 80 タカ(100 円程度)/月/世帯を徴収。徴収した組合費は農村生産者協同組合が管理する。
⑭ 組合員の定例会議の実施

2. <u>適切な生産技術の習得や商品開発(案)・サービスを行うための技能定着と商品の販売拡大</u>

(1) 漁師グループ

① 商品の品質向上研修会の開催(選抜された 10 人、7 日間)
② 商品のパッケージングやマーケティングに関する研修会の開催(選抜された 10 人、2 日間)
③ オンラインマーケティンググループの設置(5 人)
④ オンラインマーケティンググループを対象とした研修会の開催(2 日間)
⑤ 漁業をテーマとした商品のプロモーションビデオの開発。対象は、バングラデシュの一般市民を対象とし、ユーチューブ等のオンラインツールを活用して実施する。管理は、農村生産者協同組合が行う。
⑥ SNS、青空市や展示会等を通じた商品のプロモーションキャンペーン活動(バングラデシュ全国の 10 万人対象)
⑦ バングラデシュ全国で販売店の設置(30 店舗)
⑧ 販売店舗でのモニタリング、販売店オーナーや購入者からの商品に関する意見集約
⑨ 養殖: カニを養殖するためのケージ(かご)の購入と魚の餌購入

(2) 農業・畜産グループ

① 商品の品質向上研修会の開催(選抜された 12 人、7 日間)
② 商品のパッケージングやマーケティングに関する研修会の開催(選抜された 12 人、2 日間)
③ オンラインマーケティンググループの設置(5 人)
④ オンラインマーケティンググループを対象とした研修会の開催(2 日間)
⑤ 農産物をテーマとした商品のプロモーションビデオの開発。対象は、バングラデシュの一般市民を対象とし、ユーチューブ等のオンラインツールを活用して実施する。管理は、農村生産者協同組合が行う。
⑥ SNS、青空市や展示会等を通じた商品のプロモーションキャンペーン活動(バングラデシュ全国の 10 万人対象)
⑦ バングラデシュ全国で販売店の設置(30 店舗)
⑧ 販売店舗でのモニタリング、販売店オーナーや購入者からの商品に関する意見集約
⑨ 家畜飼育: 羊と牛の家畜小屋建設、羊と牛の購入、羊と牛の飼料購入

(3) 非木材林産物生産グループ

① 商品の品質向上研修会の開催(選抜された 10 人、7 日間)
② 商品のパッケージングやマーケティングに関する研修会の開催(選抜された 10 人、2 日間)
③ オンラインマーケティンググループの設置(5 人)
④ オンラインマーケティンググループを対象とした研修会の開催(2 日間)
⑤ 非木材林産物商品をテーマとしたプロモーションビデオの開発。対象は、バングラデシュの一般市民を対象とし、ユーチューブ等のオンラインツールを活用して実施する。管理は、農村生産者協同組合が行う。
⑥ SNS、青空市や展示会等を通じた商品のプロモーションキャンペーン活動(バングラデシュ全国の 10 万人対象)
⑦ バングラデシュ全国で販売店の設置(30 店舗)
⑧ 販売店舗でのモニタリング、販売店オーナーや購入者からの商品に関する意見集約
⑨ ピクルス商品資材購入: ピクルスをつくるための香辛料とボトルの購入

(4) エコ・グリーンツーリズム実施グループ

① グループ・団体での滞在が可能な宿泊施設の建設(男性 10 人、女性 10 人の収容)。なお、宿泊施設の建設に当たっては。宿泊施設施工管理専門家を現地に配置して実施する。な

	お、宿泊施設は対象村落に建設し、農村生産者協同組合が宿泊料金を徴収して管理する。 ② エコツーリズムのプログラム等品質向上のための研修会開催(35 人､3 日間×3 グループ) ③ オンラインマーケティンググループの設置(5 人) ④ オンラインマーケティンググループを対象とした研修会の開催(2 日間) ⑤ エコ・グリーンツーリズムを紹介するためのプロモーションビデオの開発。対象は、バングラデシュの一般市民を対象とし、ユーチューブ等のオンラインツールを活用して実施する。管理は、農村生産者協同組合が行う。 ⑥ エコ・グリーンツーリズムの実施拡大(観光客受入 3,000 人を目標)。本目標の達成は、農村生産者協同組合の宿泊者名簿に基づいて確認する。 ⑦ エコ・グリーンツーリズムのプロモーション活動(行政、民間企業、ホテル等) ⑧ 観光客のツアー内容に関する意見集約 ⑨ 自然体験型のキャンププログラムの実施 上記全てのグループで実施する研修会において、参加者が研修の重要事項の把握・書き留め、グループワークへの参加ができるように、文房具を提供します。 (5) 政府等が主催するフェアへの出店 政府が主催する農業展覧会や青空市等(5 回程)へ出展し､開発した農畜林産物に関する商品の展示、販売の実施と住民からの意見を収集する。 **3. <u>シュンドルボン沿岸流域を中心とした住民参加型の植林と環境教育の実施</u>** ① マングローブ 20,000 本の植林 ② 果樹・薬木等 5,000 本の植林(デイツ:1,500 本、グアバ: 500 本、マンゴー:300 本、ココナッツ:200 本、ナッツ<Betelnut>:500 本、コロイ<Koroi>: 500 本、アラビアゴムモドキ<Babla>:: 300 本、モリンガ:500 本、ニーン<Neem>: 500 本、ユカン<Emblica>: 200 本) ③ 小学校 11 校と農村生産者協同組合メンバーを対象とした環境教育の実施 裨益人口 ● 直接裨益人口:5,048 人、 265 世帯、小学校 11 校 (1) 漁師 110 世帯(110 人: 男性 50 人、女性 50 人、青少年 10 人) (2) 農業・畜産農家 80 世帯(80 人: 男性 40 人、女性 40 人) (3) 非木材林産物生産農家 40 世帯(40 人: 男性 15 人、女性 25 人) (4) エコ・グリーンツーリズム実施 35 世帯(35 人: 男性 10 人、女性 10 人、青少年 15 人 (5) 小学校 11 校(教師 34 人、生徒 1,583 人、保護者 3,166 人) ● 間接裨益人口: バニシャンタ行政村(Banishanta Union)周辺で第一次産業に従事する生産者、約 3,795 世帯 (16,124 人)
（６） 期待される成果と成果を測る指標	第 3 年次の期待される成果は、下記の通りである。 **1. <u>農村生産者協同組合の組織運営・基盤の定着</u>** 成果: 農村生産者協同組合の組織や施設の維持管理に関する計画策定やそれらを運営する組合員の技能が向上・定着することで、持続的な組織基盤を確立することができる。 指標 1: 農村生産者協同組合の組織や施設の維持管理に関する計画策定(農村生産者協同組合の組織・維持管理計画書) 指標 2: 農村生産者協同組合を持続的に運営するため、組合員により 254,400 タカ(265 世帯×80 タカ×12 ヶ月, 約 334,000 円程度)/年が貯蓄される(農村生産者協同組合の銀行口座通帳記録) **2. <u>適切な生産技術の習得や商品開発(案)・サービスを行うための技能定着と商品の販売拡大</u>** 成果: 農畜林水産物商品の品質向上や、販売店舗、エコ・グリーンツーリズムの拡大・定着等により、直接受益者の生計が向上する。 指標 1: バングラデシュ全国における 30 店舗の設置(農村生産者協同組合の開設記録および販売記録)

	指標 2: 漁師、農業・畜産、非木材林産物生産の各グループは事業開始前よりも 50%、エコ・グリーンツーリズムについては 10 倍程増加する(農村生産者協同組合の売上帳簿)。 指標 3: 農村生産者協同組合は、政府が主催する展覧会や青空市にて一般住民からの農畜林水産物の商品に対する意見・助言・提言の収集により、今後の全国販売へ向けた示唆を得ることができる(展覧会レポート)。 **3. シュンドルボン沿岸流域を中心とした住民参加型の植林と環境教育の実施** 成果: 組合(265 世帯)、11 の小学校(教師 34 人、生徒 1,583 人、保護者 3,166 人)の直接受益者を対象に植林活動(マングローブ: 20,000 本、果樹・薬木:5,000 本)とその環境教育を行い、バニシャンタ行政村周辺の農地、樹木や漁場等の里山・里海の保全・再生およびシュンドルボン沿岸流域の森林保全が行われる。 指標: 組合(265 世帯)、11 の小学校(教師 34 人、生徒 1,583 人、保護者 3,166 人)の自然環境保全のアンケートで、参加者の 8 割が沿岸流域の植林の役割・意義・必要性について理解を得ることができる(植林活動記録)。
（7） 持続発展性	(1) 農畜林水産業の 6 次産業化の能力開発・ネットワーク強化を通じた貧困削減への寄与 ① 農村生産者協同組合、行政、企業(食品加工・旅行会社)、大学、学校、NGO 等の関係者を巻込むことで、シュンドルボン全体の農畜林水産物やその商品の販売を効果的且つ持続的に進めるための包摂的なネットワークの形成・強化へつなげることができる。 ② 農畜林水産の六次産業化による生産技術、商品開発、加工技術やマーケティングに関する技能向上によって、他地域へ農畜林水産の 6 次産業化を波及させていくためのモデルケースを創出することができる。 ③ 第 1 次生産者が適切な自然資源の利用による農畜林水産物の生産、および商品開発やマーケティングの技能習得によるビジネスモデルの構築により、組合の世帯全体が年間を通して公平な価格で農畜林水産物の商品を販売するための仕組みが構築される。 ④ 付加価値のある農畜林水産物の商品開発を図ることでそのブランド力を構築することで、地域住民の包摂的な経済・社会の発展および貧困の緩和へ寄与する。 (2) 施設の維持管理(第 1 年次～第 3 年次事業) ① 建設された組合の事務所は、農村生産者協同組合が、毎月、組合員から徴収した運営費や農畜林水産物の販売による収益の一部を導入することによって事務所の維持管理を行う。 ② エコ・グリーンツーリズムの観光客を対象とした宿泊施設については、事業終了後、農村生産者協同組合や村が維持管理を行う。 ③ 車両、その他の機材についても農村生産者協同組合が維持管理を行う。 (3) 地域の持続的な自然環境保全活動 組合員や小学校を中心とした教師、生徒、保護者が植林及びその環境教育を継続していくことで、シュンドルボン沿岸域の自然環境が保全され、持続可能な農畜林水産業へ貢献する。